

奥の細道紀行330年記念事業

特別展 芭蕉

令和元年 10月5日[土]→12月8日[日]

■休館日:毎週火曜日(10月22日は開館)、
10月16日(水)、23日(水)、11月6日(水)、25日(月)
■展示解説:10月5日(土)・6日(日)午後2時～

東西文化の交流地点である大垣は、戸田藩主の一貫した文教尊重の施策によって、市民文化が花開き、多くの学者・芸術家を輩出する土壌がありました。江戸時代の俳人・松尾芭蕉は、元禄2(1689)年、大垣で「蛤のふたみにわかれ行秋ぞ」と詠み、5カ月にもわたる「奥の細道」の旅をむすびました。今年はこの紀行から330年目に当たります。

大正元(1912)年に、大垣市船町に生まれた守屋多々志は、芸術に深い関心を寄せる家庭環境の中で育ちました。幼いころは芭蕉が旅をむすんだ船町湊辺りを遊び場に、風流人の祖父に俳句の手ほどきを受け、芭蕉を身近なものに感じながら子供時代を過ごしました。

のちに守屋は、緻密で確かな歴史考証、内外を超えた独創的な画題と巧みな構成で「歴史画の第一人者」として活躍しましたが、大垣に縁の深い芭蕉には思いが深かったのでしょう。《更科》《萩の宿》また《遊行柳》《行人》など芭蕉をテーマに数々の歴史画を描いています。晩年には、芭蕉と旅を共にした河合曾良と自身を重ね「同行二人」の思いを込め《扇面芭蕉》シリーズを描いています。

本展では、芭蕉をテーマに描いた作品のほか故郷をテーマに描いた作品を紹介します。芭蕉と守屋とともに、ふるさと大垣を巡る旅をお楽しみください。



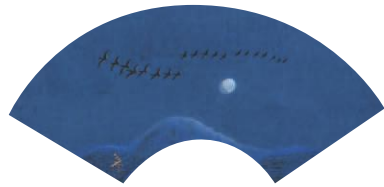
〈扇面芭蕉〉あかあかと日は難面も秋の風



〈扇面芭蕉〉山中や菊はたをらぬ湯の匂



〈扇面芭蕉〉こちら向け我もさびしき秋の暮



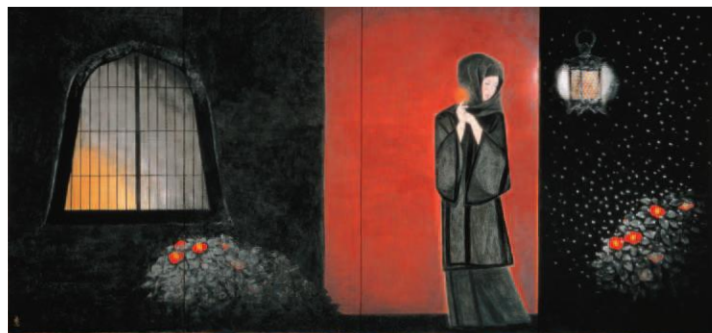
〈扇面芭蕉〉義仲の寝覚めの山か月悲し



〈扇面芭蕉〉隠家や月と菊とに田三反



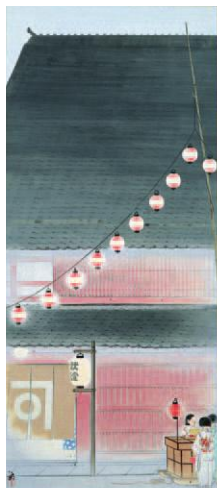
〈扇面芭蕉〉蛤のふたみに別行秋ぞ



赤穂の灯(浅野内匠頭の妻)



ふるさとの家(朝餉)



ふるさとの家(宵宮)



思い出の五色酒



小下図 遊行柳(芭蕉)



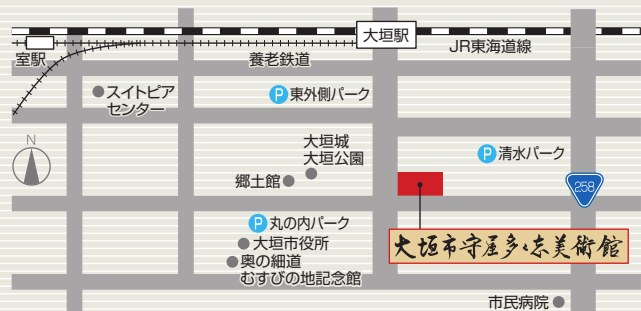
夕立そだまり本家



住吉燈台



樂城名月



O G A K I C I T Y M O R I Y A T A D A S H I A R T M U S E U M

大垣市守屋多々志美術館

〒503-0887 岐阜県大垣市郭町2-12 Tel・Fax 0584-81-0801

開館時間 午前9時～午後5時 ※入館は午後4時30分まで
 入館料 ●大人…300円 ●4館共通 大人…600円
 ●高校生以下…無料 ●団体(20名以上)は各半額
 ※展示内容・会期等が変更される場合がございますのでご了承ください。
 主催/大垣市・大垣市教育委員会・大垣市守屋多々志美術館

休館のお知らせ 12月9日[月]～1月7日[火]展示入替・定期点検・年末年始期間等のため臨時休館します。

次回のお知らせ 第77回企画展「古都を歩く」令和2年1月8日[水]～3月15日[日]